

図1 培養法と遺伝子増幅法の検査期間の比較

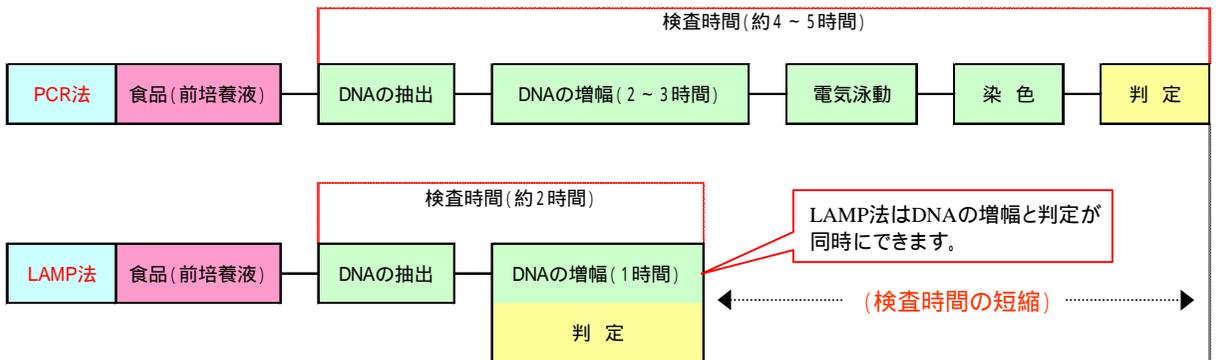


図2 遺伝子増幅法(PCR法, LAMP法)の検査時間の比較

表1 検出感度

添加菌量 ¹⁾ (cfu/25g)	食材の乳剤液 ²⁾			食材の前培養液		
	PCR法	LAMP法	直接塗抹培養 ³⁾	PCR法	LAMP法	培養法
0	-	-	-	-	-	-
10 ¹	-	-	-	+	+	+
10 ²	-	-	-	+	+	+
10 ³	-	-	-	+	+	+
10 ⁴	-	-	-	+	+	+
10 ⁵	-	-	-	+	+	+
10 ⁶	+	+	+	未検査	未検査	未検査

表2 食材からの検出状況

食材 ¹⁾	食材の前培養液		
	PCR法	LAMP法	培養法
1	-	-	-
2	-	+	+
3	-	+	+
4	-	-	-
5	+	+	+
6	-	-	-
7	-	-	-

1) 食材(牛肉25g)に加えたサルモネラ属菌の菌量 2) 滅菌希釈水で食材を10倍希釈したもの (+: 検出, -: 不検出) 1) 食材: 鶏肉25g (+: 検出, -: 不検出)
3) 乳剤液を直接培地に塗抹して培養したのも



図3-1 PCR法の特異性
(反応液の電気泳動像)



図3-2 LAMP法の特異性
(反応液の濁度測定画面)

- 1, 2, 3: サルモネラ属菌
- 4: Proteus属菌
- 5: 腸管侵入性大腸菌O 124
- 6: 腸管出血性大腸菌O157
- 7: 陰性対照
- 8: 陽性対照

PCR法では5番の検体に非特異的反応が認められました。